

第1回宮崎海岸市民談義所 議事概要

日時：平成21年4月25日(土)

場所：住吉公民館

事務局より、開会の挨拶、国、県の出席者の紹介を行った後、これまでの経緯と当面のスケジュールについて説明を行い、質疑応答を行った。

その後、市民連携コーディネータの進行により、ワークショップ形式によりこれまでの意見の確認を行った後、宮崎海岸市民談義所の進め方についての質疑応答を行った。

○主な質疑の内容

質問：宮崎海岸市民談義所の各回のテーマは、既に決まっているのか。

回答：説明したテーマは事務局が提案したものであり、これだけに限るものではない。皆さんのお話を伺いながら決めていきたい。

質問：「誰かを悪者にするということはない。」という勉強会で用いていたルールが説明されたが、間違った意見は正した方がよい。

回答：個人の中傷はしないという事で、客観的な事実に基づいて間違っている事を指摘することは制限しない。

質疑：次回以降の宮崎海岸市民談義所のテーマに「意見の調整」という記載があったが、意見を述べる前に、「意見の調整」という記載をされるのはおかしいのではないか。

回答：これまでに開催した海岸勉強会や宮崎海岸懇談会等で既に多くの意見を頂いており、その事を踏まえて「意見の調整」と記載した。新たな意見があれば、これからもお伺いしていきたい。

質疑：侵食の原因を解明する事が重要。個人的には、もっと特定できると思っている。

回答：侵食のメカニズムは非常に複雑である。ダムや港の建設も何らかの影響を与えていると思うが、何がどの程度の影響を与えているのかを解明することは、現在のところ困難である。今後も調査を続けていきたい。

質疑：地元の間人は農業や漁業で生活しており、宮崎海岸の問題は死活問題。もっと地元の意見を重要視すべき。

回答：地元の人々の意見は非常に重要だと思っている。ただし、地元以外の人々の意見も聞きながら進めていきたい。

質疑：工法の提案はどこでしたら良いのか？

回答：宮崎海岸市民談義所でやって頂いて構わない。

質疑：「試験施工」という言葉からは砂浜を何かで固めるという提案に聞こえたが、砂浜や砂丘を固めるべきではない等の基本的なことを議論していくべきではないか？

回答：「試験施工」という言葉を使っているが、必ずしもコンクリート等の構造物の設置をする事を前提にしたものではない。「試験施工」の内容についてはこれからみんなで話し合っていきたい。

質疑：市民連携コーディネータには、現場のことを良く考えて意見調整して欲しい。

回答：宮崎海岸市民談義所で行いたいのは、市民が納得できる方向性を見出すこと。市民の意見がバラバラのままであると、国も市民の意見を汲み取るのが難しくなり、結果として市民の不満が大きくなる。参加者との意見交換を通じて、ある程度、みんなが納得できる形にまとめていくことが大切と考えている。

質疑：港や道路の撤去など現実的に難しいと考えられる意見も出てくると思うが、国土交通省としてはどこまで対応出来るのか。

回答：我々には、予算や、法律、技術力など様々な制約がある他、役所以外の方も含めた多くの関係者との調整も必要となる事もある。どこまで対応出来るかはケース・バイ・ケースであり、ここで全てをお答えすることは難しい。

質疑：参加者が宮崎海岸市民談義所でそのような提案をすることについての制約はないということで良いのか。

回答：参加者がそのような提案をすることについての制約は無い。

質疑：説明された「宮崎海岸トライアングル」に「海岸よろず相談所」の記載があるが、これまでに「海岸よろず相談所」に提出した意見はどう取り扱われるのか？

回答：これまでに提出された意見は引き継がれている。

質疑：鳥取では侵食が止まったとの新聞記事があった。他の地域の事例についても参考とした方が良い。

回答：他の地域の事例についても参考にしていきたい。

質疑：宮崎海岸市民談義所のテーマは「試験施工の方向性の提案」となっていて、宮崎海岸侵食対策検討委員会技術分科会では「試験施工案の提示」となっている。宮崎海岸市民談義所からの提案に対する宮崎海岸侵食対策検討委員会技術分科会からのフィードバックはどうなるのか？

回答：宮崎海岸市民談義所の提案に対して、宮崎海岸侵食対策検討委員会技術分科会では、専門的な立場から技術的な検証等を行っていくことになる。適宜、宮崎海岸市民談義所にもフィードバックしていきたい。

質疑：来月から海岸にアカウミガメがくると思われる。小丸川の礫を養浜した箇所は地盤が固くなっており、7 cm程度しか地中に棒が入らない。三財川の土砂を養浜した箇所は40cm程度地中に棒が入る。良く調査して頂きたい。

回答：調査する。

質疑：宮崎海岸市民談義所の参加者を増やしていく方法として何か考えているか。

回答：予算的に厳しいものもあるが、人が汗をかいてできることはしていきたい。

以上

第2回宮崎海岸市民談義所 議事概要

日時：平成 21 年 5 月 30 日(土)

場所：佐土原町総合文化センター

事務局より開会の挨拶、国、県の出席者の紹介を行った後、市民連携コーディネータの進行により議事が進められた。

まず、事務局より「談義所の役割」について説明した後、「これまでに頂いた意見の整理・回答等」を行い、質疑応答を行った。続けて、事務局より、「委員会・技術分科会での検討状況と本日の談義の内容」について説明を行い、質疑応答の後、「市民が考える、対策の条件・配慮すべき事項」に関するワークショップが行われた。

ワークショップでは、市民等の参加者が「実施して欲しくないこととその理由」、「実施して欲しいこととその理由」、「海岸の現状」を名前とともに記入した付箋を宮崎海岸の航空写真の上に貼った後、市民連携コーディネータの司会で、市民の参加者の間で談義が行われた。

また、最後に宮崎海岸市民談義所の進め方についての質疑応答を行った。

質疑の内容、談義の内容等は以下の通り。

(質疑の内容)

質問：事務局が質問に対する検討の状況を説明しないと意見への回答にならない。地盤沈下についても、検討の状況が説明されていない。

回答：今回の回答で全て皆様からの意見に回答したというつもりではない。今後も引き続き、情報提供等していきたい。尚、地盤沈下については、情報を収集中である。

質問：地盤沈下のことだけでなく、局所的な現象と温暖化などの地球規模的な現象との仕分けを明確にし、検討して行ってほしい。

回答：了解

質問：宮崎県中部流砂系委員会については誰が設置したものか、また、宮崎海岸との関係や、現在の検討状況についても教えて欲しい。

回答：委員会は、行政を含め 20 名の委員からなる国土交通省宮崎河川国道事務所が設置したものである。侵食原因は、ダムの建設、河川改修による海に出る土砂の減少、海岸構造物により土砂の流れの変化があると考えられている。それぞれの施設には、治水や利水、物流など個々に目的があるが、山から海まで連携して砂の動きをとらえ、実施可能なことは協力して、改善していくことが重要。現在、問題意識を共有した段階であり、これから実施可能な事を検討していく。

質問：護岸が侵食の原因ではないのか？

回答：護岸によっても土砂の流れに変化があり、侵食の原因の1つになると考えている。

質問：これまでトライアングルの説明を何度もされているが、3すくみになり、解決の方向を見出すのが大変であると思う。ダム、港の撤去などの話に発展する事も予想されるが、そのような心づもりはあるのか。

回答：まずは、この談義所で議論を掘り下げ、方向性を見出すことを目指したい。また、最後は事業主体である我々が、市民の意見や専門家の助言を踏まえて、責任を持って判断する。

質問：昨年度、大淀川、三財川の土砂を用いた養浜を実施してきたが、それをどう評価しているのか？

回答：現在、モニタリングを実施中であり、談義所でも調査結果を情報提供していきたい。

質問：養浜後、魚が減り、釣り人を見かけなくなった。

回答：養浜の影響については、現在、モニタリングを実施中であり、談義所でも調査結果を情報提供していきたい。

質問：養浜した箇所は砂の固さを調べているのか？

回答：浜の固さまでは調べていない。今後、検討していきたい。

質問：養浜箇所は、車の乗り入れが多く、また、オートバイも走っている。埃がたつし、何とかして欲しい。

回答：後で、詳しく状況を教えて頂きたい。

質問：佐土原の海岸を見てきた。護岸はどのようなプロセスでつくられたのか？行政判断か？

回答：行政の判断で行ったものである。

質問：土砂収支の図の内容は私の認識と異なる部分があるが誰が作成したものか。住吉から宮崎港への矢印は根拠がないと思うし、一ツ瀬川右岸の導流堤は沈下している。高鍋も侵食していると地元の人から聞いている。

回答：国土交通省が作成したものであり、前回の委員会で現在推定されるものとしては概ね了解頂いたものである。ただし、昭和58年以降の測量データと、測量データがない区間については航空写真の水際線の変化から推定したものであり、みなさんの経験からくる認識と異なる部分があるかもしれない。住吉から宮崎港への矢印に特化した議論は無かったと思われるので、改めて確認したい。

(談義の内容)

参加者：車の乗り入れの98%はサーファーである。

参加者：石崎川近くには貴重な植物がいるが、車に踏みつけられている。

参加者：釣り人も乗り入れているが、サーファーが目立つのか、いつもサーファーが指摘される。車上あらしがあるので、海から見えるところに車を置いておきたい。この問題について、仲間と情報共有することはできる。

参加者：ウミガメなどの関係で、ここまでは乗り入れは駄目という事を教えていただければそうする。今はそれがわからない。

事務局：車の乗り入れの問題について、(ウミガメ、植物、サーフィン、釣り)などの様々な観点からの意見が市民からあげられたので、別途、市民によるルール作りの場を設ける。

(ワークショップで付箋に記入された市民の意見)

赤色の付箋紙：実施してほしくないこと(その理由)

青色の付箋紙：実施してほしいこと(その理由)

黄色の付箋紙：海岸の現状 ※皆さんに知ってもらいたいこと

場所	色	意見
全体	青	魚貝類の調査。水深 10m付近が一番重要だと漁業関係者が言われている。具体的なデータ
	青	養浜の土台としてフォレストベンチ工法で試験施工！
	青	浜ガケ防止としてもフォレストベンチ工法の試験施工を是非お願いします。
	青	防波堤としてフォレストベンチ工法を試験施工！
	青	離岸堤をコンクリートでなくフォレストベンチ工法での試験をお願いします。
	青	水深 15m砂の粒子分布、水深 10m砂の移動分布
	青	浸食が進んでいる全てのところにコンクリートを使用せずに、試験施工を考えて欲しい。
	青	沖合の海底(底形)の調査(砂のつき方)
	黄	動物園がサーフィンのポイントと思われているが全域で行なわれているので一部だけを残すのではなく・・・
	黄	宮崎に来て 10 年サーフィンできる所が砂がなくなって多数消滅しました
	赤	海岸付近への立ち入り禁止等ならないようにしてほしい(全ての人利用できる海)
	赤	不用な突堤を取除くべき
	赤	全域で新規の植林
	赤	全域で護岸等の新規の設置
	赤	原因解明する前に工法をきめないでほしい
赤	目先の対処療法だけで多額の税金使うのやめて、次世代のことを考えて。T字は×	

佐土原町 浄化センター 付近	青	流木養浜工
	青	砂抄工法
	青	松林。松以外の雑木もきらないで育ててほしい
石崎川付近	青	砂抄工法
	青	地盤沈下の調査・原因・影響
	青	海岸保全(木で)というのを試しにやってほしい
	青	大炊田海岸での海岸植林とそのための防波堤の撤去。植林の海岸への進出をストップ。
	青	この辺の湿地帯の植物を国立公園 国定公園 天然記念物のような保護地区にしてほしい
	青	日本でひとつしかないといわれているヒルガオ(き少種)を車でふんでいく人がいるので注意してほしい
	青	海浜植生工
	青	石崎浜へアカウミガメの上陸期間(5月～10月)は車両乗り入れを禁止処置をしてほしい
	青	車の海岸への乗り入れ禁止
	青	原則 海岸を立入禁止(正し行楽のため) 最低車両禁止にして砂に生える植物をふやしてほしい
	青	養浜
	青	流木養浜工
	黄	この辺は台風のとくに水没するものの、めずらしい植物や木や虫がたくさんあり土地が保全されているもと湿地帯
	黄	石崎浜 現在は車両乗り入れ自由であり、土日等のサーファーの車両がおびたしい。
	赤	この辺には、企業や開発や個人に誘地しないでほしい
赤	車の乗入禁止	
赤	石崎浜 車両乗り入れをしてほしくない	
住吉 I C 付近	青	流木養浜工
	青	長期的な事かな? コンクリート構造物を部分的にでも試験的にとりのぞいてみてほしい。
	青	養浜
	青	保安林についての調査(場合によってはセットバック)
	青	砂抄工法
	赤	ヘッドランドも税金のむだなのでやめてほしい
	赤	突堤はつくらないでほしい(逆に砂がへる気がするから)
赤	ステップアップサイクルをふまえ修正をしにくい工法は行なわないで	
一ッ葉 PA 付近	青	流木養浜工

	青	一部 有料道路の高架化
	青	吸い出し現象の調査。滑動の心配がある。
	青	養浜
	青	テトラポットの撤去
	青	風車+ヘッドランド(エネルギーの利用・景観への配慮・観光資源)
	青	ヘッドランドの過去の事例の検証(ほんとうに有用?)
宮崎港付近	青	松林の復元・再生
	青	サンビーチツ葉及びフェリーターミナルの砂が堆積して困っているなら、侵食されている所に供給する方向で・・・(一石二鳥では・・・)
	青	不用の突堤を取除く
	青	宮崎港サンドポンプ→住吉へ
	黄	昭和46年5～6月頃、海岸沿いの海の中でアサリをとったことがある。泳ぎもした。
	黄	年毎に埋ってせまくなっています
	赤	テトラポットの多様を避けて欲しい(長期的な必要性?景観配慮)
	赤	ここも埋ってしまうのでは?
	赤	港湾独自で防波堤の延長をしないで。宮崎海岸の意識を
青島付近	黄	青島の海水浴場の砂の流出状況について現況をお教えてください。
	黄	青島の海水浴場の件、防波堤が出来て景観はよくなったが、砂は波もさらわれて少なくなっていないのか。青島の串間太夫の出来る以前に浸しょくがあるのではとゆう事だったがどうなのか?

※一人から複数回答があったものも含まれる。

以上

第3回宮崎海岸市民談義所 議事概要

日時：平成 21 年 7 月 25 日(土)

場所：佐土原町総合文化センター

事務局より開会の挨拶、国、県の出席者の紹介を行った後、市民連携コーディネータの進行により議事が進められた。

まず、事務局より「これまでのおさらいと本日の流れ」、「談義所の役割、談義のルール等」について説明した後「第3回宮崎海岸侵食対策検討委員会技術分科会の報告」を行い、質疑応答を行った。

その後、「第2回宮崎海岸市民談義所での意見の掘り下げ」を行った。続けて、事務局より今年度の「養浜計画(案)」を説明し、質疑応答の後ワークショップが行われた。ワークショップでは、市民等の参加者が「養浜の実施にあたり現地で配慮・工夫してほしいこと」、「養浜の実施箇所の現状、情報」を名前とともに記入した付箋を宮崎海岸の航空写真の上に貼った後、市民連携コーディネータの司会で、市民の参加者の間で談義が行われた。

また、前回談義所のワークショップで実施した「市民が考える、対策の条件・配慮すべき事項」について、追加意見がある方に提出してもらった。

最後に、「養浜以外の対策も含めた今後の検討の進め方」、「海岸の利用を考える会(仮称)の設置」について事務局より説明を行い、質疑応答を行った。

質疑の内容、談義の内容等は以下の通り。

～質疑の内容～

【第3回宮崎海岸侵食対策検討委員会技術分科会の報告】

質問：第3回技術分科会で地形変化モデルは決定したということなのか？確認・修正事項があったと認識しているが。

回答：これで決定というものではない。技術分科会で委員から指摘を受けた事項等は今後、検討を行う。

質問：地形変化モデルの構築においては、構造物設置の影響や構造物の被害(離岸堤の沈下)を考慮しているのか。

回答：離岸堤については構造物として考慮していない。港湾への土砂の堆積は考慮している。

質問：地形変化モデル構築において、一ツ瀬川、小丸川、大淀川からの土砂の供給は考慮されているのか？

回答：小丸川から 5 万 m³、一ツ瀬川から 0.5 万 m³の土砂供給を計算条件として入力している。

質問：「安定」という説明があったが、何年間の結果なのか？動物園前は、海岸線が 80m くらい後退している。

回答：土砂収支図は約 20 年間の地形変化の傾向を分析したものである。また、「安定」と表現していたのは小丸川～一ツ瀬川の区間であり、ご指摘の箇所は侵食が進んでいると

理解している。

尚、もともと「安定」と表現していた小丸川～一ツ瀬川の区間についても、誤解を与えるため「一定の地形変化傾向は認められない」という表現に改めたところである。

質問：バー地形が沖に動いたということであるが、岸側に土砂は戻ってくるのか？

回答：波が砕けるところにバーができる。5月末の高波浪の影響もあり沖にバーが移動したと考えられるが、静穏な状況が続けば、バーはまた岸に近づくとと思われる。

質問：7月5日開催の公開勉強会で専門家が、「水深9mより深いところへは、土砂は移動しない」と言っていた。

回答：海岸工学の一般的な理論として、それより深い場所では波による顕著な地形変化が起こらないとされる水深があり、宮崎海岸の場合は、既往の測量データの解析結果から水深10～12mと推定される。なお、台風による高波浪が頻繁に発生するなど、その水深より沖側に土砂が移動した場合には、陸側に戻ってくるができなくなる土砂もある。

また、土砂の移動形態は粒径によっても変わる。例えば粒径の小さいシルト・粘土分などは浮遊状態でも移動することから、この移動限界水深よりも深い場所に移動することはあると考えられる。

【養浜計画（案）】

回答：動物園沖の海中養浜は、どのくらい的水深への投入なのか？

回答：水深5mくらいの場所を予定している。

質問：「危ないところ」に対策をして欲しい、と地元は言っている。勉強会のときもそういう話があった。それと養浜箇所との関連は？

回答：前浜のない一ツ葉PA付近と一ツ瀬川右岸は、「危ないところ」のひとつになると考えており、養浜計画案のいくつかはそれらの箇所への土砂供給を期待しているものである。

質問：勉強会で地元が「危ない」と言っていたのはどこか？

回答：場所を特定した意見ではなかったと認識している。

質問：「危ない」とは、護岸に被害が及ぶことを「危ない」といっているのか。砂浜は、一時は狭くなってもまた、戻るはたらきがあると思う。

回答：「危ない」の一つの見方として、土砂収支で見れば、毎年約20万m³の砂が減少している住吉海岸は危ない地域と見る事が出来ると考えている。「危ない」にもいろいろな考え方があると思うので今後議論していきたい。

質問：H21養浜は、投入する全体ボリュームはいくらか？

回答：養浜の全体量については漁協などの関係者との調整があるため、現時点では確定していない。

質問：動物園裏の養浜箇所では、5mの浜崖ができています。これは、ウミガメが登れない比高であり、質的にも滑って登れない。今年は産卵せずに海に引き返すウミガメが多い。養浜はウミガメに影響がでないように、段階的に実施するなどして欲しい。

回答：検討していきたい。ワークショップでもそのような意見を出して頂きたい。

【養浜以外の対策も含めた今後の検討の進め方】

質問：説明のあった内容は、時間的にはどの程度の期間を想定しているのか？

回答：2,3年程度を想定している。

質問：対策事例の情報を提供するとあったが、海外事例も含めるのか？

回答：検討する。

質問：試験施工は、複数案の同時期の実施は想定しているのか？

回答：予算のかからないようなものであれば複数のもを同時に実施することはありえると考えている。尚、検討段階においては、複数の案を同時に検討することを想定している。

質問：一連の海岸でも状況や特性が異なるので、いくつかのゾーンに分けられるのではないか。ゾーンによって試験施工のやり方も変わってくるのではないか。

回答：今後、そのような議論を進めていきたい。

～養浜計画（案）に関するワークショップで出された市民の意見～

青色の付箋紙：養浜の実施にあたり、現地で配慮・工夫してほしいこと（その理由）

黄色の付箋紙：養浜の実施箇所の現状、情報 ※皆さんに知ってもらいたいこと

場 所	色	意 見 下線を引いた箇所は、内容を確認した事項
全体	青	養浜は漂砂による自然工法で、宮崎県の土砂は火山性で供給土砂は可能である。
	青	養浜については構造物、砂浜等によって工程が異なると思われるので区分して考慮すべきである。 <u>一連の海岸でも状況や特性が異なるので、いくつかのゾーンに分けられるのではないか。ゾーンによって試験施工のやり方も変わってくるのではないか、ということ。</u>
	黄	養浜は毎年実施することになれば莫大な予算が必要ではないか。
一ツ瀬川	青	養浜と合わせてダムからの土砂の供給量のバランスをとってほしい。 （台風の時などは多めに流すとか・・・） <u>川から自然に土砂が出るようにして欲しい、ということ。</u>
	青	一ツ瀬ダムにたまっている土砂を海岸に持ってきてほしい。
	黄	一ツ瀬川からの供給土砂を増やす方法・工法を検討して欲しい。 <u>川から自然に土砂が出るようにして欲しい、ということ。</u>
石崎浜	青	養浜工事の土砂量を1/2以下にして欲しい。
動物園裏	青	動物園の東に道路を確保して、侵蝕を防ぐ工事を早急にやってほしい。 <u>養浜は、H20 実施箇所よりも北側で実施して欲しい、ということ。</u>
	青	養浜工事を段階的に実施する。（ <u>盛る高さ</u> を）約1m位。 <u>3期に分けて養浜を実施して欲しい。分けて実施すれば、崖が形成されず、自然の地形が形成され、ウミガメが登りやすい、ということ。</u>
	黄	動物園から海へとつづく道路の場所が侵蝕がはげしいので、大きな台風で海水の侵入が起こりそうで心配。
動物園沖	青	動物園沖の船からの養浜は、もっと北で実施してほしい。基本、南に流れる為。

※下線の部分は、ワークショップ中に市民連携コーディネータにより口頭で確認されたもの。

～「市民が考える、対策の条件・配慮すべき事項」に関する追加意見～

赤色の付箋紙：実施してほしくないこと(その理由)

青色の付箋紙：実施してほしいこと(その理由)

黄色の付箋紙：海岸の現状 ※皆さんに知ってもらいたいこと

場 所	色	意 見
全体	青	砂浜が拡大縮小しても人の生活に被害を及ぼせないために幅広い海岸林が作られてきたはず。だから砂浜の侵食問題を論議するときには海岸課や河川課や港湾課に加えて、海岸林を担当する部署も参加してほしい。 <u>林務部局も一緒に侵食対策を考えるべき、ということ。</u>
	青	市民の安心・安全の為、台風時に海水が入らない応急工法。先ず、仮工事を実施すべきではないでしょうか。 <u>台風時に海水が背後地に進入しないように早急に対策を実施すべき、ということ。</u>
	青	市民と海岸利用者との腹の割った話し合いの場を設けるべきです。
	黄	ごがんをしげんてきにとりのぞいて、そこへようひんしたらどうかと思います。 <u>試験的に養浜を実施するというなら、養浜した箇所では試験的に護岸を撤去したら良いと考える、ということ。</u>
	黄	松林がどんどん前に出てきて(海側に進出してきて)、そこへ砂も入っていく、海浜植生をこわしていると思うので、考えてやった方がいいと思う。
	黄	ヘッドランドなど、コンクリートにたよりすぎない工法をお願いしたい。
石崎川 付近	青	導流堤の設置。砂浜流出以前は汀線に直角に石崎川は流入していた。 <u>石崎川は昔は(河口が)まっすぐ流れでていたが、今は違って、暴れ川になっている(河口の位置が安定しない)。導流堤を設置して欲しい。河口が暴れると海浜も安定しない、ということ。</u>
	黄	石や雑木が多い。
住吉 IC 付近	黄	波うちぎわにスナホリガニがたくさん生活している。 <u>スナホリガニは、ヤドカリの仲間であるが、ヤドカリのように宿は背負っていない。ゲンゴロウのような容姿、ということ。</u>
	赤	砂丘の上に松を植えないでほしい。
大淀川 河口	黄	大淀川導流堤付近に砂の異常な(!?)堆積が見られるが・・・ <u>大淀川導流堤の左岸が、この1年で急激に堆積している。これはなぜか?原因が知りたい、ということ。</u>

※下線の部分は、ワークショップ中に市民連携コーディネータにより口頭で確認されたもの。

～第2回宮崎海岸市民談義所での意見の掘り下げ～

第2回談義所での意見	確認結果
<p>(実施してほしいこと：全体) 魚貝類の調査。水深 10m付近が一番重要だと漁業関係者が言われている。具体的なデータ</p>	<p>意見の意図は、漁業関係者に、水深 10m付近が重要であると聞いた、重要である理由は知らないが、調査したらどうか、ということ。</p>
<p>(実施してほしくないこと：全体) 不用な突堤を取除くべき</p>	<p>意見の意図は、「不要な」ということ。 機能を果たしていない不必要な突堤は取除くべき、ということ。</p>
<p>(実施してほしいこと：住吉 IC 付近) 長期的な事かな？コンクリート構造物を部分的にでも試験的にとりのぞいてみてほしい。</p>	<p>意見の箇所は、港（南）の方から北に向かって作られてきている離岸堤のことを指している。</p>
<p>(実施してほしいこと：一ツ葉 PA 付近) テトラポットの撤去</p>	<p>意見の箇所は、一ツ葉 P A 付近のことであるが、全体的にもそういう考え（テトラポットを撤去してほしい）を持っている。</p>
<p>(実施してほしいこと：宮崎港付近) 不用の突堤を取り除く</p>	<p>意見の意図は、「不要な」ということ。 宮崎港を建設する際に、防砂堤（南ビーチとマリーナの間）ということで設置されたが、機能を果たしていないのではないかと。きちんと検討されて設置されたわけではないのではないかと考えている。 また、港の近くは波が複雑で船が転覆するくらいである。これが突堤のせいなら取除くべきではないか。ひいては、これは砂浜の侵食につながっているのではないかと、ということ。</p>
<p>(海岸の現状：宮崎港付近) 年毎に埋ってせまくなっています</p>	<p>意見の箇所は、宮崎港のサンビーチのこと。 サンビーチに砂が堆積してきており、海水浴ができる部分の面積が狭くなってきている、ということ。</p>

※今回不参加の方に対しては次回以降に確認を行う。

第4回宮崎海岸市民談義所 議事概要

未定稿

日時：平成21年9月7日(月)

場所：佐土原町総合文化センター

事務局より開会の挨拶、国、県、市の出席者の紹介を行った後、市民連携コーディネーターの進行により議事が進められた。

まず、事務局より、談義所の役割、談義のルール等、前回実施したアンケートの結果について説明した後、市民による意見発表(5名の方が発表)を行い、質疑応答を行った。

その後、事務局より、本年度の養浜の検討状況、海岸の利用を考える会(仮称)の状況の報告を行い、質疑応答を行なった。

市民の意見発表、質疑の内容等は以下の通り。

～市民の意見発表～

【発表】

- 海岸技術者の心得として、草を生やして一人前といわれており、植生の生える天然の砂浜を復元することが望ましい。宮崎では災害復旧で海岸が整備されてきたが、経済的、効果的な砂浜復元を図るべきである。
- 早期復元を図るためには、砂の流出区間に砂すき工法、石崎川右岸区間には植生工法、離岸堤区間には人工ビーチに堆積する砂の浚渫、その他の構造物区間には流木を活用したいかだ組み工法による自然工法により砂浜復元を図るべきである。
- 宮崎では92年の台風で、青島から高鍋の海岸で浜崖が発生し、高さ1～2mであったが、現在では10mになっている。一ツ瀬川左岸の富田海岸は、国内有数のコアジサシ、アカウミガメの産卵地の砂が流出したことから、砂すき工法を考案して設置した。その結果、現在では、国内有数の耐潮性植物の自生する復元海浜となっている。
- 砂すき工法の部材は、潮に強い杉の間伐材を軸組したものである。93年の戦後最大台風14号の襲来状況の写真を資料として掲載している。装置の耐波浪性、堆積砂の流出抑止効果が確認された。
- 砂浜復元には経費を要するが、現在の養浜工法ではさらに被害が増大する。相談なしに工法を決めないで、地域住民の意見を認識していただき、早めに、復元できるところから施工を願いたい。
- 宮崎県は、これまで全国に先駆け、景観、道路、河川、急傾斜地の植栽、多自然型工法、砂防の一面張り流路工の現地発生材の石組み工法等を開発するとともに、自然石石組みの石工の養成に努めてきた。宮崎の安い素材を活用し、地域住民の早期に利用できる安全・安心の対策工法をお願いする。

【個別質疑】

コーディネーター：離岸堤区間の浚渫工法とは？

発表者：人工ビーチに堆積した砂を浚渫して、その堆積砂を離岸堤の背後に搬出させる。

コーディネーター：構造物区間の流木工法とは？

発表者：砂地に寄せる流木、竹類でいかだ組みして構造物の前面に設置し、その上に流木を積載する。

【発表】

- 海岸は、不幸があれば浜くだりをして身を清め、子供に汗疹ができれば海水をつけに行く、また、遠足や釣り、ソフトボール、貝採りをする生活の場であった。
- 最近、砂浜が急になくなったのか、海面が上がったのか、台風の際は海水が動物園裏の駐車場のすぐ下まで迫ってくるので心配している。台風の時だけでなく、海水は浜崖の近くまで迫ってきている。
- 昔は砂浜がなだらかであったが、最近は急に下がっている。最近台風が来ていないが、台風ときは波により地響きがするようになった。住吉の人はみんなそう感じていると聞いた。
- 台風の際は、海風が吹き、家まで海水が飛び、潮がどっぷりつくので、台風後は家を水で洗う。ビニールを被せていないハウスは、塩害でぼろぼろになっている。
- 地元としては、少しでも早く手を打ってほしい。これが地元の要望である。

【個別質疑】

参加者：塩害は昔より強くなっているか？

発表者：激しくなっている。平成10年以降ひどくなっていると感じている。

参加者：住民の人はほとんどというが、戸数でいうとどのくらいか？

発表者：戸数は、全部で360、370戸くらいである。

【発表】

- サーフィンをするためにほとんど毎日、動物裏に行っている。今日も海岸を見てきた。
- 松林は塩害を防いでいると思うが、松林が浜に迫っており、台風の際に浜崖が削れると松林を守るための護岸を作ることになるのではないかと考えている。調査をしているわけではないが、可能な範囲だけ松林を少し陸側にバックさせれば、その前に自然の砂丘ができないかと考えている。
- 動物園裏は、浜は狭いがまだ自然の状態に近い。球場裏は砂浜が無くなったが、養浜をして少しサーフィンが出来るようになった。コンクリートが入っていて初心者には危ないが、養浜によりサーフィンが出来るようになった。沖に砂が無いとサーフィンはできない。沖に砂がつきサーフ・バーができれば、サーフィンができる。
- 沖に砂が無いと小さい波でも直接護岸に波が当たるため、かなり高く飛沫があがる。少しでも沖で波がくずれ、狭くても砂浜があれば、塩もそんなに高く飛ばないのではないかと考えている。
- 地元の方の話を伺うと自然の砂浜があった昔のほうが塩害がなかったとも聞く。構造物を作り出すと、それを守るためにまた構造物を作ることになり、自然の浜はなくなっていく。
- 松林を陸側にバックしたら塩害がひどくなるから出来ないということになるかもしれないし、行政には縦割りの問題があるのかもしれないが、少しでも松林が陸側にバックできないのか、談義所でも議論し、出来るかどうか調査をしてみてはどうかと考える。

【個別質疑】

参加者：いつから海岸にくるようになったのか？

発表者：出身は大阪で14年前に宮崎に来た。はじめは一ツ葉でサーフィンをはじめたがサー

フィンが出来なくなり、港に近いところから北へと移動してきた。

参加者：20年位前から侵食がはじまっているが、その頃は200mくらい砂浜があった。今、浜崖になっているところは元々、松林だった。今見えている浜は、松林であったところが削れた砂でできた浜である。松林を陸側にバックさせるということは考えられない。

参加者：海岸線が後退して松林が削れたところもあるが、松林が海側に出てきているところもある。県の委員会でも検討された。

コーディネーター：保安林の位置の話は確認する必要がある。行政の縦割りで難しいという問題は市民には関係のない話。弊害があるのなら、正していき、総合的に検討していくということが大切。松林の話は、技術的な観点もあり、最初から論外という話でなくて、行政も検討していくべき。

【発表】

○私が子どものころと比べると、今の海岸は、砂の粒子が小さくなり、砂鉄分が少なくなった。台風後は、打ちあがっている海草が少なくなり、流木が多くなっている。さらに、松くい虫の被害で松林が減ってきたと思う。そして、特に感じるのが、海岸の砂がなくなったということ。

○平成11年の海岸法改正により、防護だけでなく利用と環境についても考えるようになり、これまでのような検討が積み重ねられてきたと思うが、整備が必要な海岸線は長いので緊急性の高いところから早く何らかの対策をしていくべきと考える。

○侵食対策というだけでなく、民生安定、生命財産の保護(国土保全)という観点を基本に考えることが必要と思う。

○台風の大型化などで、有料道路まで被害が生じることも懸念される。一ツ葉パーキングエリアの前の護岸が被災し、有料道路まで全部壊れた場合、どれだけの税金が必要となるか、危惧している。

○利用者の方々の合意や皆によるこばれる整備が必要だと思うが、いつまでも議論をするのはどうかと思う。一日も早く、地元の方々や利用者の方々の不安を解消する対策を早急に実施するべきと考える。

【個別質疑】

参加者：砂が小さくなった、砂鉄が減ったといわれたが、どこのことか？

発表者：高鍋の海岸のことである。

参加者：距離から考えると大炊田が一番先に集落がやられると思う。KDDIの塔もあり、そこらが流されたら、大きな経済的損失になると思う。大炊田を早く対策しないと大変なことになると思う。二ツ建海岸と大炊田海岸の侵食が激しいと思っている。

【発表】

○「Planning without facts 要因のない計画」という東大の先生の言葉が私の転機となった。これは、ある計画を実施すると、計画そのものは自己完結するがその周辺に考えていなかった事象が起こる、ということをご自身の体験から語った言葉である。

- その先生は、東南アジアの海外援助で、輪中堤を実施し、輪中の中は被害を受けなくなったが、輪中の外はその影響を受けて被害を受けるようになった、という経験があるとのことだった。
- シニア海外ボランティアでマレーシアのコタバルに行った時、宮崎で起こっていることが既に起こっていた。日本政府がプロジェクトをたちあげダムを5つつくることを計画したが、やめた。それでも、十分な砂の供給はなされない状況であった。
- 温暖化を防ぐには、細かな調査が必要で、それはなかなか進まない。気象調査も大変。CO2削減も並大抵のことではない。温暖化すると、融雪が早く生じるようになり、夏場に水がなくなるなど、いろいろな悪い面がでてくる。温暖化とハリケーンや強風(竜巻)の発生頻度も相関があると思っている。
- 宮崎海岸も、要因のない計画である要素はあると思う。ただし、最近技術が発展してきたのでそれを回避できる可能性があると思っている。

【個別質疑】

参加者：防潮林の幅はどれ位あればいいと思っているか？

発表者：明確な答えは持っていない。

参加者：昔は林帯幅が広がった。松林を陸側に増やしていけばいいと思うか？

発表者：住民のため、農業のためには、上手く維持されるのであれば、松林(防風林)があったほうがいいと思う。マレーシアでは、ヤシを防風林としているが、侵食が進んでヤシの根本の砂が流されて転倒している。個人的には防風林としてはマングローブがいい。

【全体質疑】

コーディネーター：流木工法、松林の陸側へのバック等の提案がありました。その他の発表者のみなさんは何か対策の提案がありますか？

発表者：砂を逃がさないために、離岸堤をつないでみてはどうかと考えている。干拓のようなイメージ。

参加者：干拓で囲い込むと言われたが、オランダと日本では、状況は似ているのか？

発表者：木崎干拓がある。宮崎でも規模にもよるが可能と考える。

参加者：侵食の原因は港である。港がある限り何をやっても侵食は進む。前に、5億円かけて護岸をやったが台風で壊れ、また作り直した。宮崎港の防波堤を撤去し、浚渫を止め、一ツ瀬川の突堤も撤去して、それでもし砂が戻らなかったら、私達の次の生活や安全を図るために、お金を取っておいて、そのとき移転に使って欲しい。

発表者：河口部の開発(港の建設：宮崎港)については、侵食の話は別にしても、河川への影響やその是非を検証すべきと思う。

コーディネーター：いろいろ意見が出されたが、事務局は何かコメントありますか？

事務局：砂すき工法や、離岸堤をつなげる対策の提案があったが、これについては勉強させて頂きたい。また、地元の方の海岸とのつながりや危機感についての発表があったが、地元の方の安心が確保出来るよう対策を検討していく。保安林については、今日、関係部局も来ているが、問題を共有しながら検討していきたい。また、緊急的、優先性なども考えながら対策を検討していく。

参加者：勉強して対策を検討していくというが、検討の結果は発表するのか？

事務局：皆さんに報告する。

コーディネーター：委員会での議論や談義所での議論は、コーディネーターを通じて互いにフィードバックしていく、ということが前提である。

参加者：談義所に来る機会がなく久しぶりに参加したが、あまり話が進展していないと思った。先ほどの港の話も、みんな、港が原因の一部だとはおっしゃるが、それ以上の話が進んでいない。そろそろ回答を出しつつ、議論を進めていく方がいいと思った。

コーディネーター：私も、この2年、進んでいるような、進んでいないようなまどろっこしさを感じている。ただ、調査も進み、委員会や技術分科会でデータに基づいた議論ができるようになったという意味では、遅々としてはあるが進んでいる、あるいは、深まっていると言えると思う。お互い、粘り強くやらなければいけないと思う。

参加者：市民側からこうした方がいいという意見は出つくした感がある。最初はオーストラリアの工法はどうかという意見も言っていたが、日本では無理があるということも少し理解が出来たところである。技術者でたき台を検討し、こういうものがあるが皆さんどう思うか、と言われたほうが市民側からすると意見を言いやすい。

参加者：談義所のチラシを見て、どのくらい人が増えているのか興味があつて参加したが、あまり人が増えていないことがわかった。人が増えない理由を国がよく考えて、もっと人が集まるような方法を考えてもらいたい。

参加者：国が養浜を実施しているが、これからの時期が養浜の砂の動きが活発になる一番重要な時期。市民の情報を上手く利用して貰えば、国でお金を使って調べることが出来ない事実が、もっと、リアルタイムで分かると思う。例えば、サーファーであれば頻繁に海に入っており、どこに砂が堆積しているとか、堆積しないとか、釣り人でも砂の動きで釣れるとか釣れないとか、わかるようになる。うまく調整して欲しい。

コーディネーター：今日はこの前よりは少し参加者が多いが、もっと参加者を増やしたいと思っている。人が増えない理由を国がよく考えて、という話がありましたが、もしこういうことが理由じゃないかということがあれば教えて頂きたい。また、アンケートにも書いて頂きたい。

参加者：理由の1つは、県民一人一人が、切迫した問題と理解していないこと。侵食という言葉自体が一部の人間にしか被害感が伝わらない。ニュースやメディアで流れていても、海岸利用者や海岸付近の住民の一部にしか、興味がわかないような報道になっている。国土の消失と考えれば、もっと多くの皆さんに伝わると思う。

参加者：談義所の進み方が遅すぎて、興味が無くなって参加しなくなったという場合もあるのではないかと思う。

参加者：野鳥が飛んでくるので、野鳥観察をしている。地域づくり協議会では、一つの環境保護地域にしようということで、二ツ建、大炊田あたりの清掃を段階的に進める活動をしている。こういう活動についても地域と展開していくことを考えて欲しい。

参加者：話が進んでいないと発言された方がいたが、私は勉強会などを通じて海岸侵食についての知識がもの凄く増えた。寧ろもの凄く進んでいると思う。

コーディネーター：国の広報についての意見があつたが、談義所に来ている皆さんからも広報して頂くということは、1つのあり方であると思う。また、談義所での議論を通

じて、市民が海岸の利用や在り方についても考えて、様々な提案・意見を共有していく、ということは談義所の副次的な効果である。

事務局：談義所の広報については我々としても努力しているところだが、市民の皆さんとも協力していきたい。また、市民と一緒に実施する調査についても検討していきたい。今日の意見発表では、それぞれの考える対策も含めて多くの話を聞けたと思っている。先ほど、対策のたたき台についての話があったが、今日発表されている方以外にも発表を希望されている方もおり、もう少し、みなさんの考えをききたいと思っている。その後、対策案を検討していきたい。

～行政からの報告等（本年度の養浜の検討状況、海岸の利用を考える会の状況）～

事務局より、本年度の養浜の検討状況、海岸の利用を考える会の状況について説明。

参加者：人を動かすのは難しいが、動かす方法を考えて欲しい。サーフィンにしても、釣りにしても利用者は多く、横のつながりまで考えると果てしない。その一人一人の意見がもっとリアルタイムで汲み取れるようになる方法がないかと思っている。そこにお金がかかったとしても、お金を掛ける価値もきっとあると思うし、その意見というのは将来につながっていくと思うし、その効果は果てしないと思う。

コーディネーター：ここに来られている人が少ないという問題もあるので、もう少しいろんな人から意見を聞く方法を工夫して、枝葉を広げていく試みについての検討を事務局にお願いしたい。

参加者：台風は毎年来るわけではない。大型台風は10年とか、5年とかそういう間隔で来るので、長期的な観測が必要。

参加者：今年は台風がいくつか来ている。今年の台風が来るタイミングは大潮と重なっており、大潮の満潮のときに、養浜の砂が持っていかれている。その砂の動きに興味がある。

参加者：台風が来なくても、ものすごく浜がえぐれている時がある。毎日海に行っている人はわかる。そういう状況を伝えたい時があるが今の状況では伝えられない。

コーディネーター：たとえば、メールアドレスをみなさんで共有しておいて、その日の海岸の状況を連絡するというようなコミュニケーションの仕方もある。

コーディネーター：削れたとか溜まったとかで、一喜一憂するレベルとそうでないレベルがあると思うので、短期的な動きと中長期的な動きの2種類を切り分けて解釈する必要がある。

事務局：携帯電話のアドレスを教えるのでまずは、そこに連絡して欲しい。

参加者：携帯に情報提供して下さいというのは、如何なものかと思う。皆が共有できる形で情報収集・公開していくべきである。

コーディネーター：今のお話は「海岸出張所に情報が集まる」ということが一番大切であると思う。みんなで情報を共有していく事については、検証されない情報が広まることの危険性もあるので、検討が必要であると思う。

参加者：来年度の予算額はどのくらいか？

事務局：現時点では個別海岸の予算額はわからない。

参加者：昨年予算は、何に使われたのか？

事務局：養浜や地形測量、動植物の調査に使われている。

事務局：次回は、第6回侵食対策検討委員会後の開催を予定している。内容は意見発表、委員会の報告を予定している。